

パラグアイ共和国厚生省中央研究所・熱帯病病院

建設計画基本設計調査報告書

昭和56年3月

国際協力事業団

開 二

81-72

国際協力事業団		
受入 月日	'84. 4. -3	708
		62
登録No.	02439	ADP

## 序 文

日本国政府は、パラグアイ国政府の要請に応え、同国厚生省中央研究所、熱帯病病院建設計画にかかる基本設計調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施した。

本計画は、同国の医療事情改善のため臨床検査の充実と、瘰、シャガス病等の熱帯病感染症の研究、熱帯病の治療、医療従事者の教育訓練を目的とした中央研究所および熱帯病病院を建設するものである。

当事業団は、1980年11月より1981年3月までに、事前調査団（団長・林康之順天堂大学医学部助教授）、基本設計調査団（団長・小酒井望順天堂大学医学部教授）および報告書説明調査団（団長・林康之順天堂大学助教授）をパラグアイ国へ派遣し、本計画に必要な調査を実施した。

パラグアイ国においては同国政府の全面的協力を得て、調査および協議は円滑に行われた。引き続き国内において各種の検討、解析作業を行い、その結果を集大成し、ここに本計画基本設計調査書として取りまとめた運びとなった。

この報告書が本計画の推進に寄与するとともにパラグアイ国とわが国両国の友好親善に役立つことを願うものである。

最後に、調査にご協力とご援助をいただいたパラグアイ国政府関係者ならびにわが国関係各位に対し深い感謝の意を表する次第である。

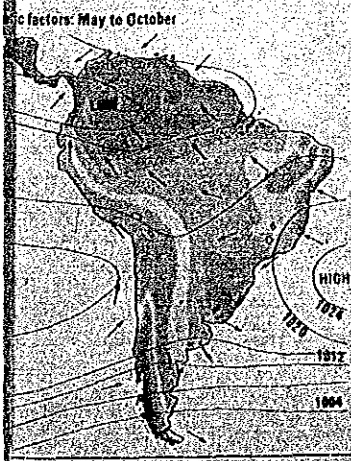
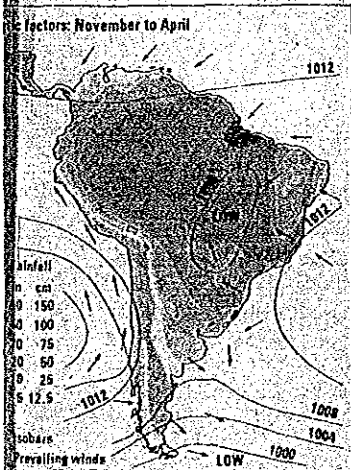
1981年3月

国際協力事業団  
総 裁 有 田 圭 輔



# MAPA DE SUDAMERICA

(南アメリカ地図)

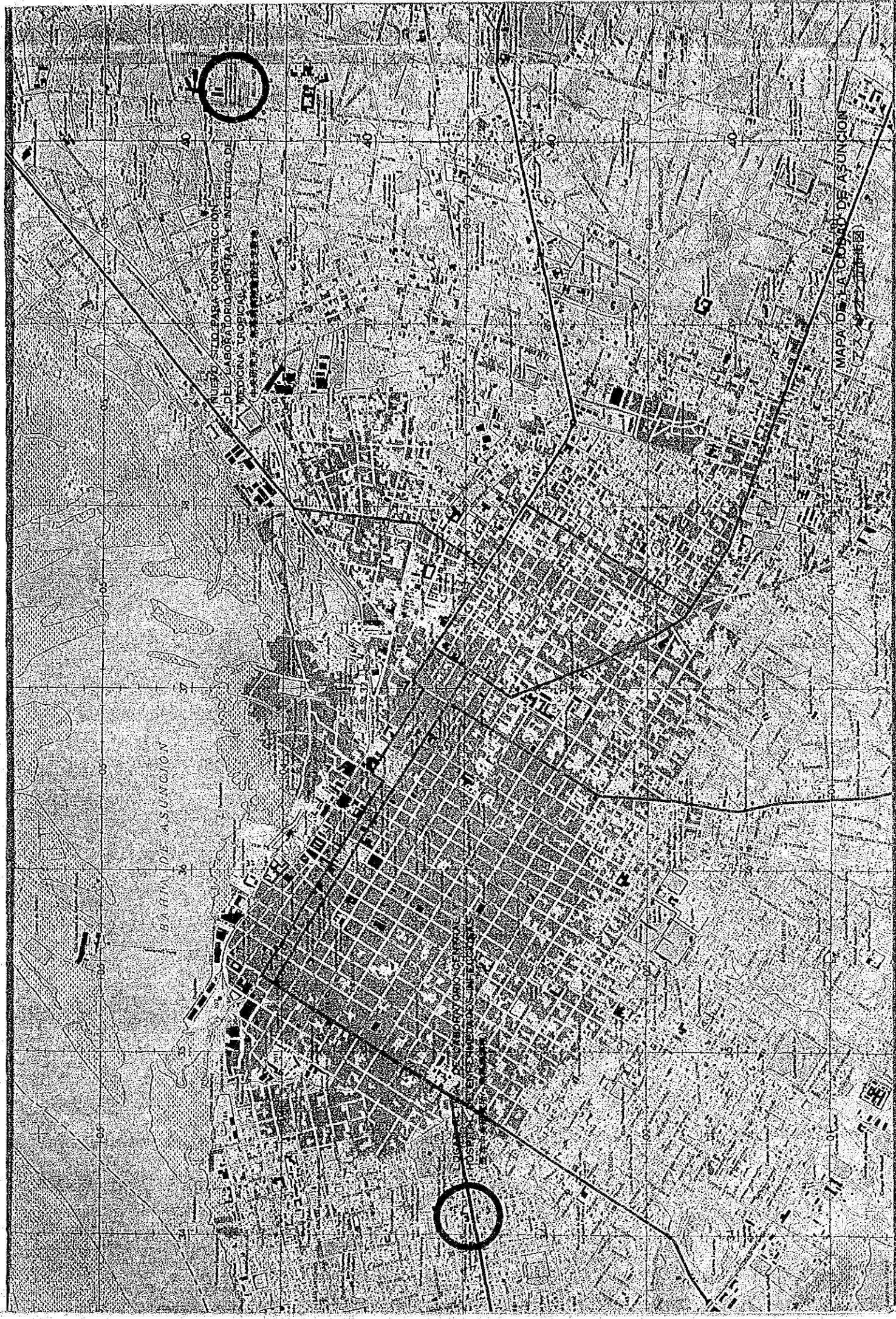


### Natural vegetation zones

- Beach and cedar forest
- Broadleaf deciduous forest
- Azucaria forest
- Mediterranean forest
- Tropical rain forest
- Semi-deciduous forest
- Open xerophytic forest
- Tall grass gallery forest
- Montane grass and shrub
- Tall grasses
- Short grasses and shrub
- Desert scrub
- Barren land







BAHIA DE ASUNCION

NUEVO SITIO PARA CONSTRUCCION  
DEL LABORATORIO DEL INSTITUTO DE  
MEDICINA TROPICAL

MAPA DE LA CIUDAD DE ASUNCION  
(1:50,000)



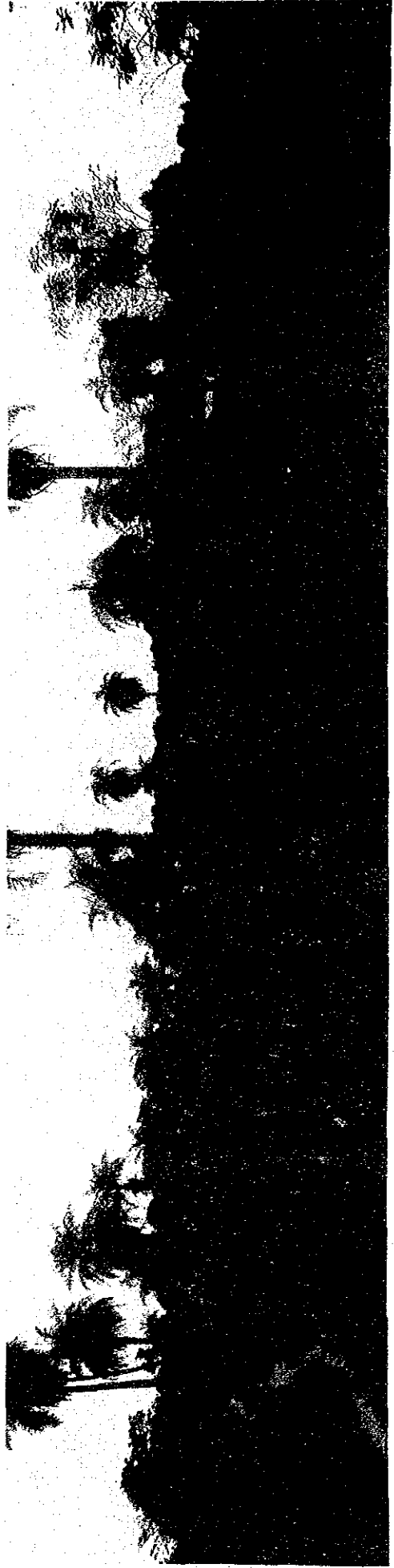




◆ DESDE AVDA. VENEZUELA  
(ベネズエラ通りから)



◆ DESDE LA PARTE CENTRO  
DEL TERRENO  
(敷地中央付近)



◆ DESDE LA PARTE NORTE  
DEL TERRENO  
(敷地北側)



# 目 次

序 文	
第 1 章 要 約	1
第 2 章 基本構想	9
2-1 計画の背景	9
2-2 計画の経緯	12
2-3 基本構想	16
第 3 章 基本設計調査の内容	19
3-1 気候風土	19
3-2 建設予定地	22
3-3 法令関係	28
3-4 建設業界の実態	28
3-5 一般建設コスト	30
第 4 章 基本設計	35
4-1 基本方針	35
4-2 施設内容	36
4-3 土地利用, 施設配置計画	37
4-4 土地造成計画	39
4-5 建築計画	40
4-6 構造計画	43
4-7 設備計画	46
4-8 工事区分	50
4-9 基本設計図	51
第 5 章 建設計画	55
5-1 建設コスト	55
5-2 建設資材	55
5-3 工程計画	56

第6章 評価と問題点	57
6-1 本計画の評価	57
6-2 本計画の問題点	58
資料編 1	
○ 事前調査ミニッツ	59
○ 基本設計調査ミニッツ	63
○ 調査報告説明調査ミニッツ	70
○ 調査日程表	72
○ 調査団の構成	75
○ パラグアイ国側関係者	76
資料編 2	
○ 表-1 現中央研究所の検査種目	77
○ 表-2 中央研究所の将来実施すべき検査種目	78
○ 図-1 中央研究所組織予定図	79
○ 図-2 熱帯病病院組織予定図	79
○ 表-3 予定人員表	80
○ パラグアイ国厚生省組織図	81
○ 医療対象人口とベッド数	82
資料編 3	
○ 気象条件	83
○ 地勢図	86
○ 地質図	87
○ 行政区画図	88
○ 人口動態図	89
○ 経済開発計画図	90
○ 敷地周辺の上下水管路図	91
○ アスンシオン水道水質分析値	92
○ 建築資材価格	93

○ 電気資材価格	94
○ 設備資材価格	95
○ 建築資材単価の変動	96
○ 工事価格の変動	97
○ 地盤調査報告書	98
○ 新聞記事	107



## 第1章 要 約

- 1-1 計画の背景
- 1-2 基本設計調査
- 1-3 基本構想
- 1-4 建設計画の条件
- 1-5 基本方針
- 1-6 工事費の概算
- 1-7 日本国・パラグアイ国の負担区分
- 1-8 本計画の評価
- 1-9 本計画の問題点





## 第1章 要 約

### 1-1 計画の背景

パラグアイ国厚生省中央研究所は約60年前フランスのパスツール研究所によって建設されたものであるが、施設の老朽化、研究内容の変遷にともない、最近では同国医療事情の改善に貢献するため臨床検査の充実が重要な課題となっている。また研究では癩、シャガス病などを初め熱帯病感染症を主とし、同国の医療水準の向上に努めることを目標としている。これらの目標達成に1980年日本国政府はパラグアイ国政府の要請に基づき臨床検査部門を主とする技術協力を開始し、1984年3月をもって終了する計画を実施中である。他方、同国研究所および隣接する熱帯病病院は1983年3月までに移転を要請されており、同国厚生省はこれを機に中央研究所の新規建設、内容の拡充整備を計画した。本計画は技術協力と一体になるべきものであり、パラグアイ国政府は研究所建設に関し、日本国政府に対し無償資金協力を要請した。

### 1-2 基本設計調査

日本国政府はパラグアイ国政府の要請に基づき、国際協力事業団を通じて1980年11月事前調査団、1981年1月基本設計調査団を3月に調査報告書説明調査団を派遣した。

### 1-3 基本構想

パラグアイ国政府と調査団の間で合意された計画の構想は次のとおりである。

#### 1) 中央研究所の機能

中央研究所の機能は臨床検査に関する実務と教育，熱帯病に関する病理研究および人材の教育養成の3つである。

##### a) 臨床検査に関する実務

臨床検査部門では，日常臨床検査を主とする検査業務を行う。

##### b) 熱帯病に関する研究

研究部門では，癩，レイシマニア病およびシャガス病等に関する研究を行う。

##### c) 人材教育

厚生省職員をはじめ大学医学部および生化学・薬学部の卒業生（臨床検査技師）を対象に検査技術の向上，普及教育を行う。

#### 2) 熱帯病病院の機能と構成

熱帯病病院の機能と構成は，パラグアイ国に多い熱帯病疾患（原虫・細菌，ウィルス，寄生虫等の疾患）の治療と医療従事者の教育養成の2つである。

##### a) 病棟部門は40～50床の規模とする。

##### b) 外来部門は，外来患者の診断を行う。

##### c) 中央診療部門は，X線診断，心電図測定，小手術室をもち，外来および入院患者にサービスする。また，臨床検査は全て隣接する中央研究所に依存する。

#### 3) 管理運営

中央研究所および熱帯病病院の運営組織は夫々個別独立のものとし，中央研究所および熱帯病病院は厚生次管直轄とする。

#### 1-4 建設計画の条件

##### 1) 建設用地の条件

パラグアイ国政府側で用意している建設用地は Venezuela 通りに面する厚生省の所有地 40ha のほぼ中央部一面 Tte. Escurrea 通りと交差する部分巾 140 m 奥行き 180 m の部分である。

##### 2) 都市施設の条件

上水、電力、電話は全て Venezuela 通りに幹線が配備されており、何れの容量も本計画の需要を賄える容量のものである。

##### 3) 災害の条件

Bella Vista 地区は大きい災害の被歴が全くないところであるが、施設建設に際しては、集中豪雨、風害、落雷、塵害、虫害等の小災害に対する配慮が必要である。

#### 1-5 基本方針

##### 1) 施設概要

中央研究所および熱帯病病院の建物構造は鉄筋コンクリートおよび煉瓦造で屋根は木造小屋組である。また、施設構成は以下のとおりとする。

##### a) 中央研究所

- ① 事務管理棟
- ② 検査および研究棟
- ③ 動物舎

##### b) 熱帯病病院

- ① 事務管理・外来診療棟
- ② 中央診療棟および病棟・食堂厨房

##### c) 渡廊下その他

#### 1-6 工事費の概算

下記概算は設計図書に関し、現地で調査したコスト条件を基に、算出したものである。

(単位百万円)

建物工事費	855.0
建物施設関連工事費	331.0
医療器材・その他工事費	100.0
設計・施工監理費	150.0
合 計	1,436.0

#### 1-7 日本国・パラグアイ国の負担区分

本プロジェクトの遂行に当り、日本パラグアイ両国のそれぞれが負担する内容は下記のとおりである(ミニッツ-1981年1月19日による)。

##### パラグアイ国負担

敷地造成、インフラ引込(上水、下水、電力、電話)、造園、植栽、門塀、工専用仮設用地の確保の工事とカーテン、ブラインド、じゅうたん、家具汁器等の設置並びにパラグアイ国内で調達可能な病院用機材(但し、下記日本側負担の医療機材以外)

##### 日本国負担

中央研究所棟、動物舎棟、熱帯病病院棟、廃棄物焼却炉、非常発電装置と動力棟、排水処理施設の建設と、実験台、100mA X線装置、ポータブルX線装置、レスピレータ、喉頭鏡、小手術用機具、滅菌器、携帯型心電計の供与と設置。

#### 1-8 本計画の評価

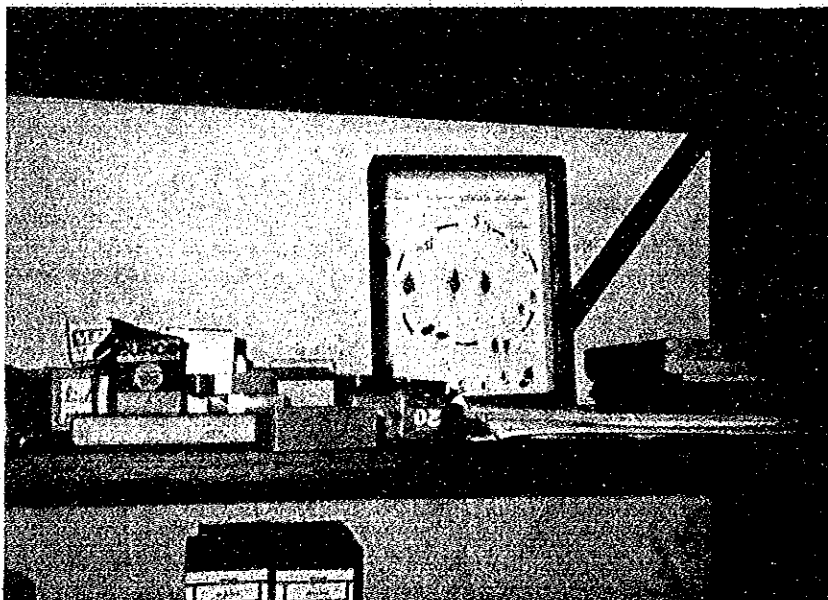
本計画の内容はパラグアイ国の医療事情における最大のニーズに  
えるものであり医療内容の質的向上に役立つものである。また、当  
国の社会経済開発計画(1977~81)に盛り込まれている長期重点目標  
5項の達成政策を遍く取入れたものである。この意味から、本プロ  
ジェクトが日本の無償資金協力として取上げられるならば1980年度か  
ら実施される技術協力と併せて、当国の国民保健向上に多大な貢献を  
もたらすものと期待される。

#### 1-9 本計画の問題点

- 1) 中央研究所と熱帯病病院は、相互に機能依存するものとして計  
画されている。これは最も投資効率の高い計画である反面、有機  
的かつ効率的運用にはいろいろ工夫を要するものである。パラ  
グアイ国当局ではこれら両施設の運営組織を個々独立のものとする  
計画を持っているが、それら2つの組織は一体となって、円滑な  
運営に関する工夫と努力を続けていかなければならないであろう。
- 2) 一方、本プロジェクトの効果は、そこにどれだけ優秀な人材が  
定着するかにかかっている。当国でむずかしいとされる検査部門  
および研究部門における人材の育成定着に関し、当局は色々な措  
置を講じることが必要であろう。

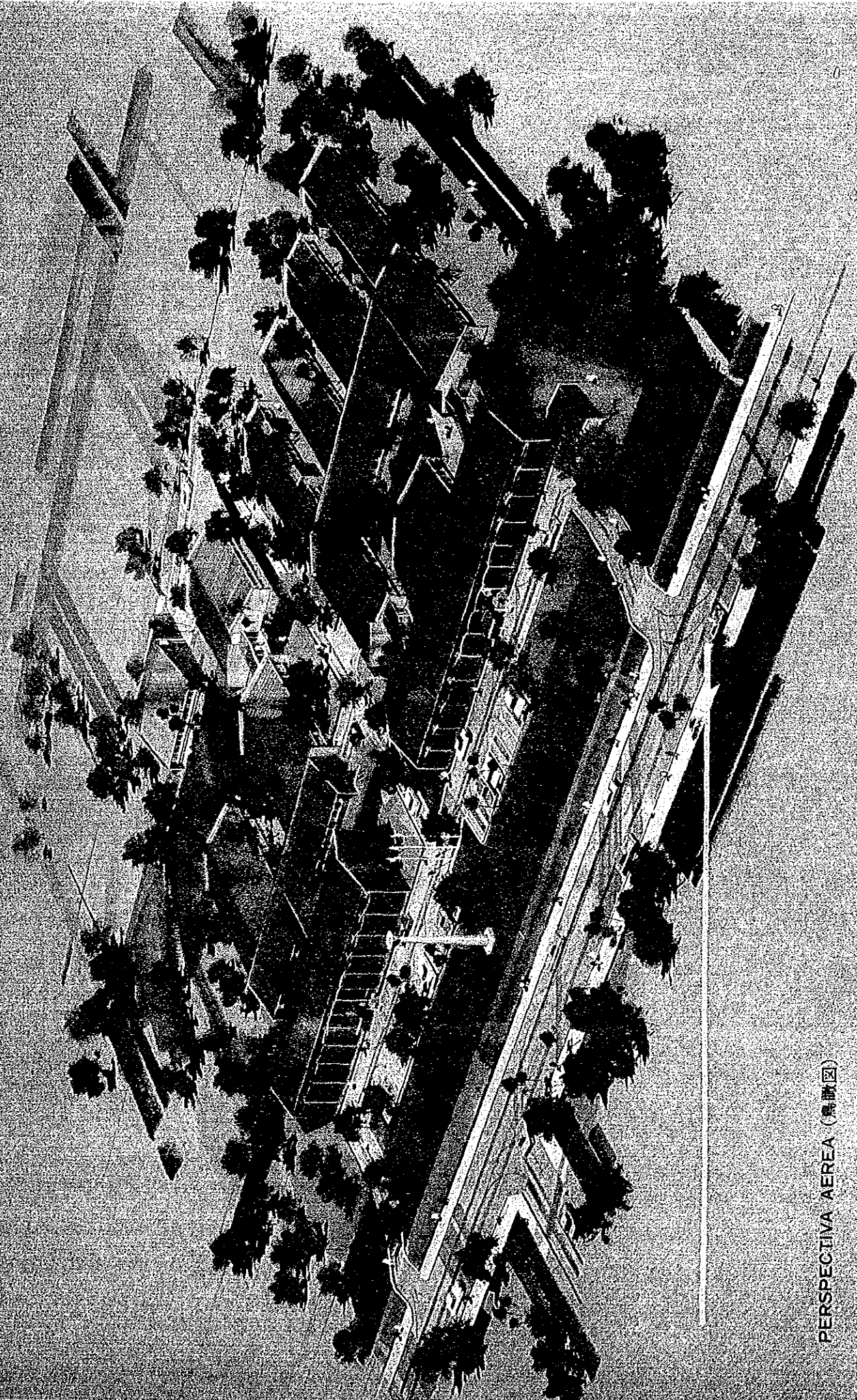


現在の動物舎とアルマジロ



ピンチュウカの変態





PERSPECTIVA AEREA (鳥瞰図)



## 第2章 基本構想

2-1 計画の背景

2-2 計画の経緯

2-3 基本構想



## 第2章 基本構想

### 2-1 計画の背景

#### 1) 社会経済開発計画

近年パラグアイ国では、国家政策の中で医療政策の位置付けが高まってきている。このことは、厚生省予算の伸び率によっても裏付けられるが、国家の社会・経済開発計画(1977~81)に網羅された国民の保健向上に関する諸項目が、的確にこの傾向を表わしている。

この社会経済開発計画には、重点目標として、次の諸点が挙げられている。

- a) 母子家族に対する保健活動の強化
- b) 地方保健の条件改善
- c) 感染性疾病の予防と栄養改善
- d) 保健サービス制度の新設と、掌管機関の設置
- e) 医療従事者の教育養成

#### 2) 医療事情に関する問題

当国の医療事情に関しては、厚生省において、いろいろな問題が指摘されているが、臨床検査における施設の不備・技術の立遅れ、および病床数の絶対的不足の二項目が大きな問題である。

##### a) 臨床検査の問題

医療従事者育成から改善されるべき問題であるが、その医療教育については、厚生省は、アスンシオン大学医学部との間に、卒業生の公職勤務に関する協定を結んでおり、これによれば、医学部卒業生はインターン期内に3ヶ月間、公務の診療施設に勤務することを義務づけられている。さらに厚生省では、これに類する協定を、生化学・薬学部との間に結ぶ準備をしている。

アスンシオン大学医学部は6年制教育を施し、当国唯一の医師養成機関であるが、教育用設備は時代おくれのものが多く、学部生に対し、十分な教育訓練が行われていない。卒業生は、毎年170~180人で、その内60~70人は、大学病院のインターン生となる。残りの100人以上には、実務教育の場の提供が必要である。

また生化学・薬学部も、医学部同様6年制教育を施し、毎年

約60人の卒業生を送り出している。当国の臨床検査技師は、この学部の卒業生が主力となっているが、教育施設の実態は医学より一段と劣っており、卒業生の技術レベルアップが、問題視されている。

#### b) 病床数に関する問題

病床数は、人口10万人あたり180床であるが、そのうち全国の総病床数の30%は、特定の人々（軍関係者、警察関係者、および社会保健加入者で約23%）が利用している。残りを一般国民が利用するがこれは、人口10万人あたり、160床となり、西欧諸国および日本の約1/10にすぎず、病床数は絶対的に不足しているのが現状である。

#### 3) 既存中央研究所の現状

既存の中央研究所は、19世紀初め、パスツール研究所の援助のもとに、熱帯病研究所として発足したものであるが、2回にわたる戦争を経て、混乱の中で研究機能が完全にストップし、臨床検査が主務になった。その後、研究機関の復活をみたのは、1970年代に入り日本の技術協力で、印南博士が専門家として派遣されたのが契機となり、その後、機材の供与も行われている。

しかし、近年増え続けている臨床検査の需要を前にして、施設、設備の狭小・老朽化が深刻化し、十分な機能を発揮できなくなっているのが現状である。

#### 4) 既存熱帯感染症病院の現状

既存の熱帯感染症病棟では、施設・設備の狭小・老朽化が共通の問題である上、本来20床を収容すべく作られた病室に30床が詰め込まれている。殊に診療・検査のための設備が不十分なことから、診療活動は思うにまかせない状況にある。

#### 5) 両施設の移転問題

また、これら厚生省管轄の両施設は、その施設が最高裁判所の建設用地に当てられたことから、1983年3月末（最高裁の完成時期）までに移転しなければならないことになっている。

#### 6) 厚生省の計画と技術協力

このような状況の中で、厚生省当局は社会・経済開発計画の重点目標を達成するための活動の中心の場として、直轄下にある中央研究所を位置付け、そこにおける臨床検査・熱帯感染症研究の内容の向上を計り、かつ教育の場を提供し、検査技術の改善、

サービス範囲の拡大を目的とした改善計画を策定し、それに必要<sup>ホー1</sup>な技術協力を日本政府に要請した。これに対し、日本政府は1980年7月同日目的達成のための技術協力を開始した。そのR/Dの内容を次に示す。

a) 技術協力の目的

パラグアイ国における臨床検査技術の向上と、瘧、シャガス病、レイシマニア病等の熱帯感染症研究の向上。

b) 技術協力の内容

- ① 臨床病理研究，熱帯感染症研究
- ② 臨床検査の各分野における専門家の派遣
- ③ 機材の供与
- ④ パラグアイ国職員の日本での教育訓練

c) 技術協力の活動範囲

- ① 臨床検査分野の近代的技術の移植
- ② 熱帯感染症研究
- ③ 地方検査所からの検体輸送に必要なシステムの改善。
- ④ より効果的な研究，検査活動を行うための中央研究所の体制と運営の改善。

\*-1. 中央研究所の検査業務の内容の現状を資料編2の表-1またそれに対する厚生省の改善計画を表-2に示す。



## 2-2 計画の経緯

### 1) 無償資金協力の要請

以上のような背景から、厚生省当局は、中央研究所の移転に伴う拡充整備計画を策定し、それに関する無償資金協力を日本政府に要請した。厚生省の基本構想は次の諸点である。

- a) 日本の技術協力を得て、臨床検査技術のレベルアップを計る。
  - b) 厚生省傘下の病院や、地方検査所から送られて来る検体を集中処理し、全国を対象とする中央臨床検査センターとしての機能をもたせる。
  - c) 癩、シャガス病、レイシマニア病等の熱帯感染症に関する研究所としての機能を充実させる。
  - d) 社会・経済開発計画の重点目標の一つである「医療従事者の教育養成」の一環として、厚生省職員、大学医学部、および生化学・薬学部の卒業生を対象に検査技術の向上普及教育を行う。
- 上記の構想に必要なものとして、要請されていた施設内容は次のとおりである。

- (1) 臨床検査施設
- (2) 動物舎を含む研究施設
- (3) 熱帯病研究に伴う10床程度の病棟
- (4) 中央洗濯施設
- (5) 製薬施設
- (6) 200人収容のオーディトリウム

### 2) 事前調査

上記1)の要請を受けて、日本政府は1980年11月その要請の詳細と背景を確認するために、順天堂大学医学部臨床病理学教室林康之助教授を団長とする4名の事前調査団を現地に派遣した。

同調査団は10日間の日程で次の諸点に関する調査を実施した。

- ① 中央研究所の整備に関するパラグアイ国政府当局の意向の聴取。
- ② 中央研究所の機能の現況、国民保健の実情、医療政策の動向、医療教育の実態等計画背景の把握。

現地調査および当局との協議の結果①当局の意向については6施設の重要度順位は、上記列記の順位であることが確認された。

調査団はまた、これらの要請された施設のうち、(4)中央洗濯施設、(5)製薬施設、(6)オーディトリウムの3施設は移転予定地に既に存在するものであり、それらの中身を整備して利用する方が良

い、ということの説明し、厚生省もこれを了解した。

一方②計画の背景に関して確認されたことは前述の2-1計画の背景に記したとおりである。

### 3) 基本設計調査

次いで日本政府は1981年1月順天堂大学医学部臨床病理教室小酒井望教授を団長とする6名の基本設計調査団を現地に派遣した。同調査団は、20日間の日程で次の諸点に関する調査を実施した。

#### ① 事前調査に基づく日本側の検討結果の提案と協議

- 日本側は要請内容のうちパラグアイ国の医療事情にかんがみ「研究に附属する一時収容目的の10床程度の病棟を本格的診療、研究、および人材育成を目的とする40～50床の病院に拡充整備してはどうか」という提案を示した。厚生省はこの提案を歓迎し熱帯病全般の病院として運営することを合意した。
- 中央研究所の施設内容と規模について日本側の案を提示した。これについては協議の結果、全面的に当局の合意を得た。

#### ② 中央研究所と熱帯病病院の現状調査

##### • 中央研究所

臨床検査部門は10部門で構成され資料編表-1に示す内容の検査を行っている。この施設は60年前に建設され2棟に分かれており規模は次のようになっている。

検査棟 (1)	543 m <sup>2</sup>
〃 (2)	133 m <sup>2</sup>
計	676 m <sup>2</sup>

研究部門は、癩、レイシマニア病、シャガス病に関する研究を行っているが、アルマジロ、マウス等への癩菌の移植をはじめ、シャガス病の媒体であるピンチュウカの飼育等、動物との係りが非常に深い。このため施設は次のような内容となっている。

病理研究棟	129 m <sup>2</sup>
-------	--------------------

動物舎(1) (アルマジロ)	375 m <sup>2</sup>
# (2) (犬, ウサギ)	102 m <sup>2</sup>
計	606 m <sup>2</sup>

その他, 鳥小屋, 羊の飼育ヤード等が若干ある。

・熱帯病病院

20床目的の病棟に30床の患者を収容している。その主な疾病はレイシマニア病等の原虫疾患, 脳炎髄膜炎等のウィルス性疾患, 寄生虫疾患, 蛇咬症等である。

施設は病室の他薬局, 小手術, X線, 検査, 霊安室, 食堂等の諸室で構成されその規模は次のとおりである。

病棟	510 m <sup>2</sup>
食堂厨房当直室棟	178 m <sup>2</sup>
計	688 m <sup>2</sup>

なお現存の中央研究所と熱帯感染症病院は, アスンシオン市中心から西方約2.5kmカルロスアントニオ・ロベス通りにある同一の敷地に, 棟を接して建てられている。

③ 要請内容に関する適正な機能構成と施設規模の把握

パラグアイ国の医療事情, 政策背景, 当局の開発意図, 技術協力との関連等に勘案して, 中央研究所および熱帯病病院の基本構想を策定し, 厚生省当局との協議を経て, 内容に関する当局の合意を得た。詳細は2-3基本構想到に記す。

④ 事前調査における協議事項の確認

協議事項を再度確認した結果, 変更の無いことが判明した。

⑤ 他の既存病院の視察

パラグアイ国の医療施設の現状と建築工法に関し下記の既存病院を視察した。

- ・アスンシオン大学医学部
- ・社会保険病院
- ・厚生省慈善病院

⑥ 建設用地に関する調査

建設予定地の実測調査をはじめ, 関係諸官庁を訪れインフラストラクチャ, 災害に関する資料収集を行った。

内容は3-2建設予定地に記す。

⑦ 建設コストに関する調査

本建設計画に関するコスト調査を行った。内容は3-5一般建設コスト、5-1建設コスト、資料編3資材価格表に記す。

⑧ 基本設計に関する調査

建設に関する法・例・規および建築設備の工法、習慣等に関する調査を行った。内容は3-3法例関係および3-4建設業界の実態に記す。

以上①～⑧の調査並びに当局との協議を経て、合意事項をミニッツにまとめ調印した。(資料編1参照)

4) 調査報告書説明調査

事前調査および基本設計調査に基づいて作られた本建設計画基本設計調査報告書ドラフトを説明し協議する為に、日本国政府は1981年3月林康之助教授(前掲)を団長とする4名の報告書説明調査団を現地に派遣した。

同調査団は10日間の日程でパラグアイ国厚生省に対し同報告書の説明並びに協議を行いその内容について全面的な合意を得た。

当局との間で新たに協議された主な事項は次のとおりである。調査団は「中央研究所と熱帯病病院は機能的相互依存が大きいため、両機関の運営に有機的協調性を持たせて欲しい」という要望を提示した。これに対し当局は、両機関を共に厚生次官の直轄下に置き、協調性のある運営をして行く旨、意志表示した。

一方厚生省当局は次の3項目の要望を追加し、調査団はこれに合意した。

- ① ポータブルX線装置の設置追加。
- ② 熱帯病病院の渡り廊下は屋根と壁を設ける。
- ③ 霊安室を設ける。

当調査団はこれら協議内容をミニッツにまとめ当局との間で調印した。(資料編1参照)

### 2-3 基本構想

以上の経緯を経てパラグアイ国厚生省と、調査団の間で合意された整備構想は、中央研究所と熱帯病病院の両機関の拡充整備を骨子としたもので、内容は以下のとおりである。

#### 1) 中央研究所の機能と構成

中央研究所の機能は、臨床検査に関する実務、熱帯病に関する病理研究および人材の教育の3つである。

##### a) 臨床検査に関する実務

臨床検査の内容は下記に示す。なお検査種目の詳細は資料編表1および表2に示す。

- ① 血液検査(含尿検査)
- ② 臨床化学検査(含栄養検査)
- ③ 血清検査
- ④ 細菌検査
- ⑤ 寄生虫検査
- ⑥ ウィルス検査
- ⑦ 動物検査
- ⑧ 細胞検査
- ⑨ 病理組織検査
- ⑩ 薬物検査

##### b) 熱帯病に関する病理研究

熱帯病に関しては、移転後も、当面は次の3疾患に限り、研究を続けて行く。

- ① 瘧
- ② シャガス病
- ③ レイシマニア病

##### c) 人材の教育

医療従事者の教育養成の一環として、中央研究所は検査技師の技術向上普及と教育を行う。対策は

- ① 厚生省職員 30名/年
- ② アスンシオン大学医学部および生化学・薬学部の卒業生(臨床検査技師)100名/年

合計130名/年の実務訓練を実施する。

#### 2) 熱帯病病院の機能と構成

熱帯病病院の機能はパラグアイ国に多い熱帯病疾患の診断、治

療と人材の教育の2つである。

a) 診療範囲

- ① 原虫疾患(レイシマニア病, シャガス病等)
- ② ウイルス感染症(ポリオ, ラビス, 脳炎, 髄膜炎等)
- ③ 細菌感染症
- ④ 寄生虫疾患
- ⑤ 蛇咬症

b) 病棟部門の機能と構成

- ① 病床規模は40~50床とし, 1床室, 2床室, 4床室で構成する。
- ② 感染症・非感染症や性別, 小児・成人の区分は室単位で行い, 棟別やセクションを特に持たず, 患者の入院構成に合わせて流動的に運営する。

c) 外来部門の機能と構成

外来患者のうち熱帯病に関してのみ扱い, それ以外の患者には他の病院を紹介する。従って最小限の規模とし, 診療室2室, 処置室1室で構成する。また, 熱帯病の通院患者の定期来訪は, この部門で受ける。

d) 中央診療部門は, 入院および外来患者の両方にサービスできるものとする。

内容は次のもので構成する。

- ① X線診断室
- ② 心電図測定室
- ③ 小手術室

また, 臨床検査は, すべて中央研究所に依存し, 病院内に設けない。

e) 人材教育

医療関係人材の教育養成の一環として, この熱帯病病院は, アスンシオン大学医学部の学部生, インターン, レジデントを対象に実務教育の場としての機能をもたせる。

3) 管理運営

管理運営に関し, 厚生省は, 中央研究所と熱帯病病院はそれぞれ独立の組織機構として臨むべく計画している。

それらの機構図として資料編図-1, 図-2, 人事計画に関し表-3が厚生省当局から提示されている。

以上両機関の機能および業務内容から、各々独立の機関であるが厚生次官の直轄とし、有機的運営を行う。

当局は、運営費の予算要求において必要額は問題なく獲得できるといふ自信を表明している。